

議長定例記者会見 会見録

日時：平成27年4月16日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

議長就任から1年を振り返って

副議長就任から1年を振り返って

2 質疑項目

県議会議員選挙の結果について

議長に必要な資質について

知事へのメッセージについて

知事選挙の結果について

県議会議員選挙の結果について

一票の格差について

正副議長の選出について

議会改革について

正副議長の選出について

1 冒頭の発言事項

冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。それでは定例の記者会見をはじめさせていただきます。

これで最終の定例記者会見です。しっかりと今日は臨んでまいりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

本日は、発表事項が特にありませんので、私の方から、議長に就任してからの1年を振り返っての感想を、申し述べたいと思います。

昨年の5月、私は三重県議会の第105代議長に選出され、県民の皆さまの期待と信頼にお応えできるよう、議員の皆さまとともに、円滑かつ効率的な議会運営に努めてまいりました。

この1年間を振り返りますと、私が長年、課題と考えておりました少子化対策に関しまして、国の方でも、昨年5月の民間有識者会議からの提言等を契機として、人口減少や地方創生に係る取り組みがようやく始まった1年であったと思います。

本県においても、「まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部」を設置し、

総合戦略を策定しているところであり、若い世代の結婚・出産・子育ての希望が叶う少子化対策や、実効性のある社会減対策の取り組みが行われるよう、議会としても、今後も引き続き、しっかりと調査・審議していただければと考えています。

さて、この間の三重県議会の活動としましては、昨年5月に「障がい者雇用促進調査特別委員会」を設置し、二度の県内調査を実施するなど積極的に調査を行い、県当局に対して、「障がい者雇用実態の把握」や「企業への支援の充実」などの要望を行いました。

昨年11月に三重労働局が公表した調査結果によると、昨年6月1日現在の本県における障がい者実雇用率は、前年より大きく改善し、都道府県別では全国最下位から33位に上昇したところです。

特別委員会の活動は終了しましたが、今後も所管の常任委員会などでしっかりと議論していただき、引き続き、障がい者の雇用促進が図られるよう期待しております。

また、私が議長就任後に取り組んだ、「議員勉強会」については、先ほども申し上げました「人口減少社会」や「地方公会計改革」といった、議員間の知識の共有化を図る必要があるテーマを選定し、専門家等による講演会を2回開催することができました。

テーマに関する議員間の共通認識の醸成と理解の向上に、貢献できたのではないかと考えており、特に「地方公会計改革」において取り上げられた「基金運用」については、予算決算常任委員会の総括質疑や分科会で調査・審議するなど、議会における政策論議に活用されたところです。

議会改革につきましては、議会改革推進会議から、議員任期の4年間を見据えた「議会活動計画の策定」や「議会活動のマネジメント」が必要ではないかという提案を受けたところであり、次期の議長に引き継ぎたいと考えています。

その他にも、本年1月に、知事から、2016年主要国首脳会議（サミット）の本県への誘致が表明されたことを受けて、議会におきましても、先月17日、本県開催を求める決議を行いました。

間もなく、開催地が決定されるものと思いますが、ぜひとも、本県においてサミットが開催されることを期待しているところです。

最後になりますが、三重県議会の議長として、この1年間、その役割を果たさせていただいたことにつきまして、深く感謝を申し上げます。

また、私ごとで恐縮ですが、今期をもちまして7期27年、市議会議員時代を合わせると36年間の議員活動を終えさせていただきます。

この間、県民の皆様をはじめ、私の議員活動を支えていただきました全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

選挙に当選された次期の議員の皆様により、ますます県政が発展されますこ

とを、ご期待申し上げます。

私からは、以上でございますが、この1年間、私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてもご尽力いただきました、奥野副議長からも、一言、感想を述べていただきたいと思います。

副議長よろしく申し上げます。

(副議長) それでは、私の方から、副議長に就任してからの1年を振り返っての感想を、申し述べたいと思います。

昨年の5月に副議長に就任後、1年間にわたり、永田議長を補佐するとともに、広聴広報会議の座長として、県議会の取り組みを広く発信し、また県民の皆さんから様々なご意見をいただくなど、その取り組みを積極的に展開してまいりました。

この1年間の取り組みの中で、最も印象に残っておりますのは、昨年8月に本県議会として初めて開催しました「みえ高校生県議会」であります。

8校26名の高校生に参加いただきましたが、高校生からの質問はどれも素晴らしく、我々議員にとっても高校生の意見を直接聴くことができ、また、それに対して議員自らが直接答弁を行うという体験ができたことは、大変有意義であったと思っており、今後も引き続き開催されることを期待しております。

広報活動につきましては、昨年4月から、「みえ県議会だより」のデータ放送が開始されました。

同時にデータ放送を開始した執行部の「県政だよりみえ」による情報発信については、見直しが検討されているところであり、所管の常任委員会での議論を注視しつつ、「みえ県議会だより」についても、今後、広聴広報会議でしっかりと議論していただきたいと思います。

最後になりますが、この1年間、三重県議会の副議長として、その役割を果たさせていただいたことについて、深く感謝を申し上げます。

今後も県民サービスの向上につながるよう、さらに議会活動の充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご理解ご協力をよろしく願いいたします。

私からは、以上でございます。

2 質疑応答

県議会議員の選挙結果について

(質問) 先日、県議会選挙があったわけですが、自民みらいの議長と鷹山の副議長ということで、選挙の結果、51議席が決まったわけですが、この県議会選挙の結果については、永田議長は引退ということですが、どういうふうにと

らえられていますか。

(議長) わたしも7期県議会議員を務めてまいりました。その間いろいろと紆余曲折がありました。一言で申しますと、会派構成的には拮抗した構成になっております。ここが一番三重県議会としてこれから4年間どのように県議会をとりまとめしていくのか非常に大事なことだろうと思いますし、県民の思い・願いは何かを基本に考えながら、議会の意思統一を図っていくことが大事と強く思うのであります。過去の事象等を思うと県民の思いはどこにあるのか、こういふことでしょうか。私は引退させていただきますが、このことを一番基本において議会運営をすることが大事なのかなと思います。

(質問) 自民みらいから出る議長として、自民党は26人擁立して過半数を狙ったが、今回叶わなかった。これについてはどのように感じていますか。

(議長) これは一言で申しますと非常に残念な結果だった、この一言に尽きると思います。

(質問) わかりました。ありがとうございます。副議長、同じ質問ですが、今回の県議会選挙の結果をどのようにお感じですか。

(副議長) 私も含めてそれぞれの努力が足りなかったのが現実ですね。それと、微妙なところは国政の方からの多少の逆風もあったのではないかという気がしないでもない。例えば、集団的自衛権などタカ派的な部分は、私は選挙をしていて少し感じたような気がします。

議長に必要な資質について

(質問) 議長に伺いたいんですけど、1年間、議長をされて、議長にとって最も必要な資質というのはどんなんでしょうか。

(議長) 本当に痛いところを突かれましたね。私が就任させていただきました第1回目の記者会見ですね、これでいろいろと、皆さんご承知のとおりでございますが、私の思いをぶつけまして、それが非常に世の中を騒がすようなことになってしまって、あれから一番緊張しているのは記者会見です、私の議員活動の中で。以上でございますが、しかし、三重県議会にずっと関わらせていただきましたが、非常に常識をもった議会であったなと、このように思わせていただいております、最後に落ち着くところに落ち着けるのが、やっぱり県議会だなと、このように思わせていただいております。

(質問)議長に最も求められる資質というのは、記者会見で対応することですか。

(議長)いえいえ、そんなことはありません。県政全般に渡りましてですね、いろいろと諸課題が山積している中で、何度も申し上げますが、県民の思いはどこにあるかということ、十分皆さんの意見を酌みながら対応するというのが議会のあるべき姿なんですね。それがやっぱり議会の役割だと思います。

(質問)その観点から、ご自身の1年を振り返ると、100点満点で何点なんですか。

(議長)それは皆さんがつけていただいて、私自身がそれは申し上げられない。堪えてください。申し訳ないです。

知事へのメッセージについて

(質問)今回知事が再選されたわけですが、今後の知事の4年間に向けて、議長からコメントというか、メッセージはありますか。

(議長)知事も2期目を迎えられるわけでごさいます、1期目は4年間一緒に、私は議長としても歩ませていただいてまいりました。過去、私自身は4人の知事さんと歩ませていただきました。田川さん、北川さん、野呂さん、そして現知事ですね。一言で言うと非常に活動的ですね。何事につけても非常に活動的で、三重県としてどう歩むべきで、三重県民の思いはどこにあるのか。そして非常に活動的でやられているということ。これは若いせいもございませうけど、若いからといって、そういうこともない知事もいらっしゃいます。したがって、そういうことを思いますと、非常にフットワークが軽くて、活動的で、しかも進め方が前向きである、こういうことはいいかと思えますね。2期目を迎えられるわけですが、これからは実行力、そして県民の肌身で感じるような実行力を私は希望したいですね。いろいろと議論を申し上げて、発言するのはいいんですが、本当の意味で県民にとって肌身で感じるようにしていくことが、これから大事なのかなと、こう思います。

(質問)1期目は、そうすると口だけだったということですか。言うことは立派だったけれども、実現してないことが多いと、そういうことですか。

(議長)だけど、県政として方向が変わってきたことは事実ですよ。みんなそ

のように方向付けて。だけど、県民の末端まで肌身で感じるようにしていくのが大事であろうという思いです。

(質問)何か具体的にそういうことがありますか。

(議長)例えば、地方創生の少子化の問題でしょうね。なかなか難しい問題なんですよね。これは私は20年サイクルといつも申し上げてるんですが、ここまで三重県政もまいりました。したがって、これを県民に肌身で感じるようにするには、これからは県民総動員した取り組みをしていただく。行政だけでこれはやっていても、私は実現は難しいと思いますよ。行政だけっていうことは、それだけの財政的な裏付けを付けてやっていくというのが行政であろうと思いますが、それも大事であるかもしれませんが、181万県民が、この問題について、まさしく危機意識を共有して、そして全県民が挙げてこの問題について議論をし、それについてどうしたらいいかという取り組みをしていただくようにすることが大事かなと、こう思います。そこに伴っていくのは、三重県政としての取り組み、これは財源的な裏付けを付けた取り組みが伴ってきているわけですけど、それもそれで結構です。それもやらなきゃいかん。これは国もやっていますから、やらなきゃならないんだけど、もうひとつ、県民総ぐるみの危機意識というものを、ぜひ県民の中に培っていただければありがたいなと、これを私は強く望んでいるところでございます。

それと当面はG8です。これはぜひ実現して欲しいですね。我々もやらなにかんですよ。我々も一生懸命やらなにかんし、これも実現するということは、三重県政にとって非常に大きなインパクトを与えたいと思いますし、なんとか実現したいというのが、当面の目先の問題じゃないでしょうかね。幸い鈴木知事も、いろんな人脈もございますし、これは非常にありがたい話だと思いますし、これが実現の暁は、私は非常に明るい、式年遷宮に引き続く明るい結果だと思いますので、これを当面やりとげる、成功に向けて頑張ると、これです。私も、一日かけて、決議書を持って頼みに行っていました。

第二県政記者クラブさんも含めて、まとめて何かあれば
知事選挙の結果について

(質問)では、振り出しに戻って恐縮ですけど、選挙なんですけど、まず知事選の結果から、これを選挙中を含めてどのようにご覧になってましたか。知事選です。

(議長)私、実は知事選はもうこれはあの結果はちょっと結果として、これについてはですね、もう続投は間違いないと思っておりまして、どういう結果

に落ち着くかということに尽きると思っておりました。したがって、あのような結果になったことについては非常に喜んでいて一人でございます。それから、県議選につきましては。

(質問) いや、県議選はまだ聞いてないです。

(議長) 非常によかったなど。

(質問) ただ、その鈴木陣営そのものが当初は80万票っていう得票数を内々で掲げて、投票率がかなり低いだろうということで、70万、60万とだんだん落としたじゃないですか。結果的には60万ちょっとだったんですけど、それよりも得票率は平成に入って過去最高の得票率だったんで、それは是とされて評価されるということですか。

(議長) そうです、そういうことでございます。今申されました、投票率が残念ながら低かったということは本当に残念ですが、得票率については私は大変満足な数字だったかなというふうに判断をいたしております。

(質問) 副議長は知事選をご覧になって、選挙中と結果とどういうふうにお考えですか。

(副議長) あまり興味なかったです。

(質問) ご自分の選挙で一生懸命と。

(副議長) そうですね。はい。

県議会議員選挙の結果について

(質問) じゃあ次は県議選なんですけど、全般に今回の結果、さっき議長は各党派拮抗とおっしゃいましたけど、実質問題、無所属で出られた方4人の方で、お一人は新政みえ入られると思うんですが、あの方々っていうのはどちらかっていうと非自民系じゃないですか。それからいくともうすでに拮抗党派壊れてですね、今回の5月にある役選もたぶん、去年のリベンジで議長が中村進一さんで、副議長が日沖さんっていう形でほぼ決まりですよ。そういう形で既に拮抗が崩れているじゃないですか。この結果についてはどう思われますか。

(議長) ちょっとあまりにもこう、早くも裁定がなされたようでございますの

で、ちょっと意外なんです。数から言えば、そうわかりません。しかし、私の何期目でしたか、最大会派で議長をとって、第二会派が副議長という時代があったんです。

(質問) ありましたね。

(議長) はい、そういうようなことを私は当然今回視野に入れていくべきではなからうかと思っておりますし、もう一度これは十分にね、議会運営上あるいはまたこれからの議会対策でいろいろと県民のお声を反映していく機関としてどういう体制がいいのかっていうことをもう少しこれも考えていただく必要があるのではなからうかなというふうにも思わせていただいておりますので、それはですね、もうちょっと大きな視野に立って、議会人として代表者間で話し合っていただくことがよろしいんじゃないんでしょうかね。

(質問) 釈迦に説法で申し訳ないんですけど、かつて「無所属.MIE」という会派がありました。もともとこれは新政みえに入ってたところを岩名さんの一本釣りで4人ないし5人の少数会派、5人でしたか、少数会派を作られて、それがキャスティングボートを握ったのが平成12年ですよ、そこから15年続いた少数会派のキャスティングボート体制っていうのが今回が崩れたわけですよ。そこからいくとですね、今議長がおっしゃったことはある意味議会の議長発言としての表向きの発言としては構わないですが、ただしその実態は違うじゃないですか。それぞれが、結局権力の奪い合いでヒエラルキーでやってるわけですから、そのところは必ずしもうまくいかないと思いますし、今年の議会の役選の見込みというのは、議長は割と安心してられるんですか、それとも今申し上げたようなご指摘さしていただいたようなことで荒れるとお考えですか。

(議長) はい、これからの話し合いによって決められることでございますし、私が今この時点でですね、あまりああたこうだと申し上げるのはちょっと差し控えさせていただきます。申し訳ない。

(質問) じゃあ観点を变えて、中央政界と地方議会というのは、三重県議会は51人が一枚岩という方針のもとに議会改革を進めて、中央政界と地方政界は違うんだと、これは特に新政みえさんがおっしゃってますけども、ただし現実問題として、今回岡田代表が鈴木さんを知事選で推薦しなかったのは、中央政界の論理を地方政界に持ち込んでるわけですよ。そのへんの大義のずれというか、そこからみて三重県議会というのが果たして本当に一枚岩なのかどうか

ってというのはどうお考えですか。

（議長）改選された議員の皆さんも私自身も非常に皆さんよく存じ上げておりますし、非常に良識を持って臨んでくれるというふうに思います。したがってですね、まずとにかく十分な議会人としてこの議会の運営がスムーズにいきますように役員の話についてはもう少し大きな観点でもってやっていただくことがいいかなと思っておりますので、そこらへんは次の議会の方々にお任せをしていきたいなと思います。それしかないですね、今の私の議長としてのお返事はそれしかないです。

（質問）あと、もう少し焦点を絞って聞くと、四日市選挙区なんですけど県議選の。議長の後継的な山崎さんが落選されましたけど、この選挙の結果はどういうふうに捉えられてますか。

（議長）私の後継として山崎候補を指名したわけでごさいますて、これをどうしても当選ということで私自身もしっかりやってまいりました。私にできることはしっかりやってまいりました。それに取り組んだんですが、未だにわからないのがですね、なぜあのような結果になったのかと、何が原因だったのかっていうのは私自身も実は理解できません。私は候補者の人格識見等、あるいは歩んできた、これからも育てていけばすばらしい議員として成長してくれるということは、私自身が本当に確信をもって臨んできたわけでごさいますて、あのような結果になってしまったことは本当に一言で申し上げますが、残念としか言いようがないんですね。

（質問）敗因っていうのは特にわからないですか。

（議長）僕自身は理解できません。

（質問）知名度はやっぱりなかったんじゃないですか。

（議長）知名度は後半になってずいぶん出てきましたよ。本当に。よくわからない。これ一言。本当になぜか、なんでや、残念、こうしかありませんよ、今回の結果は。

（質問）選挙結果出た後にご本人とは会われたんですよね。

（議長）ええ、会いませんけども、電話をいただきまして「申し訳なかった」

ということの電話をいただきました。とにかく結果は結果だから頑張ろうと、これからもがんばってもらいましょうということだけは申し上げました。一言だけでした。

(質問)ご本人は特に敗因というのはおっしゃってなかったですか。

(議長)本人も何も言わなかったです。

一票の格差について

(質問)あと県議選をながめると、例えば1万票取っても落ちている方もあるし、4700票くらいで当選されている方もあるじゃないですか。選挙区によっては。これは改めてですね、一票の格差の問題ですけどその辺どうお考えになりますか。

(議長)これはですね、確かに一票の格差というのがですね、議会改革でですね、議員定数の問題で一番議論されたのは一票の格差の問題でございました。したがってそれに基づいて、今回の議員定数の結論に落ち着いたわけでございますので、この問題については、次回の選挙につきましてはですねもう方向づけがなされております。したがってこの問題については、これからも一票の格差の問題については、県議会としてもこれは議論をしていく必要があるのではなからうかというふうに思わせていただいております。

(質問)次の選挙の時の一応、条例改正した時の附帯意見的に、選挙区で一部合区したりとか定数減らしたりとかそれは決めてますけども、それは確実に守られるという方向なんですか。

(議長)はい。私はもう守るのが議会だと思っておりますので、あの決めごとについてはそのように守っていくということになると思っております。

(質問)あの時決めたことが確実に守られれば今回のような格差というものも少しは縮まるということですね。

(議長)はい。私はそう思ってます。

正副議長の選出について

(質問)議長選に絡んで最大会派から議長で、第二会派から副議長って視野に入れるべきではないかとおっしゃいましたけども今の正副議長はそうってな

いんですけども、どう理解すればいいのでしょうか。

(議長) それはもうあくまでも次の改選後の議会体制でもって決めていただくことであり、私の議員として今まで経験した中から申し上げたこととございましてそれはもう改選後のですね、議会のいろいろと話し合いの中で決めていただければと思っております。これは私が今まで経験してきたことを申し上げたところでございます。

(質問) そうすると議長はですね、第一会派から議長が出て、第二会派から副議長が出るというのが県政の常道だというふうにお考えなんですか。

(議長) そういう時期もあったということを申し上げたのですよ。

(質問) そういう時期もあったので当然それを視野に入れてくべきだと思うというふうにおっしゃいましたけども、それが望ましい形だというふうに思っていらっしゃるのですか。

(議長) それは今後のですね、話し合いによって決めていければいいかと思えます。

議会改革について

(質問) 議長は議会改革が進んだと思われていますか。それとも進んだのであればどの辺がどういう形で進んだのか教えて欲しいんですけど。

(議長) 議会改革につきましては25年5月14日の代表者会議でもちましてですね、議会マネジメントシステムが案として提案されたのを受けまして、そして6月27日の代表者会議でもってですね、議会改革諮問会議の最終答申で提案がなされた議会基本計画を含めて議会改革推進会議で検討することになって、これはずっとそれで動いてきているわけですね。それで、議会改革推進会議の役員会で議論が重ねられて議員任期4年間を見据えた議会活動を行うために議会活動計画の策定や議会活動のマネジメントが必要ではないかという提案がとりまとめられ、私も出席した1月19日の議会改革推進会議の総会において決定されたうえ、2月2日の代表者会議で報告を受けたわけでございます。議会改革につきましてはですね、三重県が議会改革のトップという位置づけをされておるわけでありまして、確かに議会改革については一生懸命に県議会としては取り組んできたわけでございまして、私はそういう改革面につきましては非常に良かったとしてそれなりの結果がでたかなと、このようにも判断を致

しております。

(質問)つまり議長の任期中にこういった成果が、見える成果として挙げられるということをお考えですか。

(議長)1年間という短い期間でございますので、これはというふうな改革じゃなくて改革に向けて取り組んできたということとはご理解ください。

(質問)つまり、成果としては挙がってないけれどもその途上にしかないということですか。

(議長)はい。それはもう改革ですね、もう今までずっと成し遂げてきたことを1年間ですね、それに基づいてやったということございまして、成果でこれだけということをお私今ここで申し上げることはちょっと差し控えます。

(質問)それは無いということですか。

(議長)まあ今も申し上げましたようにそれは改革に結びつくかどうかということなんでしょうけども、例えば高校生県議会とかですね、そういう問題については非常に私は先進議会でございますしてそれが一つの改革ではなかるうかと思えますよ。

(質問)もともと先進議会というのは議長のなられる前からずっとそう言われてきたわけで、その中で議長として何かこういうことができたっていうのがあるのかちょっと聞いているのですけど。

(議長)それはですね、議会改革を大いに積極的に進めるということが私は成果だったと思います。これはということとはなかなか1年間のことですから今こうやってということにはならんわけです。

(質問)議長、副議長の関係でいうとですね、例えば新政みえは手話言語条例なんかは前回の任期中にやりたいと思っていたけれどやっぱり自民系の方が2人で議長、副議長を占めていらっしゃるのでできなかったのかなと思って、そういう面からやっぱり議長、副議長っていうのは基本的には第一会派、第二会派で選ばれるべきなんじゃないかといことがあるのではないかと思うんですけど、その辺はどういうふうにお考えですか。つまり、議会改革の面からいくとやっぱり自民系と民主系それぞれ議長、副議長のポストを占めている方がいい

んじゃないかという声もあるのですけれども、その辺はどういうふうお考えですか。

(議長)そうですね。まあ確かに4年間というのは非常に私は多難な4年間になると思いますし、両方正も副もということでやられるということはですね、そこら辺は一つの抵抗も出てくるように思われます。したがって、そう簡単にはですね、例えば議会改革一つとっても正副議長が最大会派でとってしまったりうとなつた場合は、私はそう簡単にいけるとは思っておりません。したがって、やっぱりそこら辺はもう少し大人の判断をすべきかなとこんなふうに思いますので、そこら辺はもう次の議会のメンバーにお任せをして、大いにそこら辺は議論をした上で、議会運営上どうあるべきかということで、決定していただいでいくのがいいかなと、それが私の一つの思いです。

正副議長の選出について

(質問)役選に話を戻しますけど、もともと任期4年の中で2年議長が自民から出て、そこで副議長は新政みえから出してですね、2年間。一応、議長がおっしゃったように、第一会派は議長がと、第二会派から副議長という形ですけど、そこはちょっと逆転して、自民系が少数会派を入れても多かったので、議長は自民が取って、副は新政みえが入れ替わりしたじゃないですか。2年議長が終わって、山本勝議長3年目のときに1年議長に切り替わりましたよね。今回、新政みえさんがおっしゃっているのは、元々代表者で申し合わせで2年議長だからということで、今回の役選は2年議長ということを考えておられるみたいなんですけど、あれは代表者会議の申し合わせで結局2年議長が正規として生きているわけですか。それとも山本勝さんの1年議長に切り替えたときに、もうこれから1年議長でいくよってという話なんですか。

(議長)いや、それは一応申し合わせは申し合わせで残っているかと思いたがね。

(質問)ということは、基本は2年議長なんですよ。

(議長)それを私は、ちょっと私の口から今日ですね、ということになりますと、ちょっと申し上げるのがちょっと私も。

(質問)事務局長、どうなんですか。一応、申し合わせで2年議長にしているので、それは本来2年議長なんですか。

(事務局長) 申し合わせはですね、代表者会議で2年というのは過去申し合わせ事項で決まっております。今回、前回の議長についてはそれぞれの思いで1年という任期もありました。

(質問) だから、本来3年目の山本さんのときも2年だったけど、山本さん自ら1年議長にすると。逆に新政みえも1年議長にしなければ、こっちも票出さないよってことで、山本議長は全会一致で議長になりましたよね。永田議長が1年で同じように残り任期1年でしたから、1年議長でやられていると。今回の役選については2年議長というのは、本来ありきなんですね。

(事務局長) 過去の申し合わせでそう代表者会議でなっているという事実を踏まえて、新しい議員でご協議いただくことだと考えています。

(議長) 今、ここでそれはちょっと勘弁してください。新しい体制が進んでいくわけですから。

(質問) 永田議長は1年は短いから、2年の方がいいと思いますか。

(議長) もうこれはですね、私は1年就任させていただきまして、それはもうそれぞれのやる気で臨めばいいことであって、なにも1年、2年ということにこだわることはないと思いますね。

(質問) こだわるというのは、1年にこだわることはないということですか。

(議長) やっぱりこれからの話し合いのもとでどうなるか、これはまたお任せしておかないかと思うんですが、これはですね、もうその議長に就任した者の気力、やる気、これで私はいけると思います。何も2年にしなきゃならないとか、1年でなきゃならないということじゃなくて。

(質問) 副議長、先ほどですね、永田議長の方から最大会派から議長、第二会派から副議長、そういう時代があったと、そういうことを視野に入れていくべきだという発言がありましたが、副議長はこういう最大会派から議長、第二会派から副議長というようなお考えについては、どのように感じていらっしゃいますか。

(副議長) 選挙ですから、これも。だから、それは結果そうなる、第一会派が2つ取るのもありやし、だけど、両方から来るのが議会運営が上手くいく場合

もあれば、第一会派から2人正副でもまたそれもありますから、こればかりは第一会派の方がどんなふうにするかというのは考えるでしょう。第二会派の方からどうのこうのというような、選挙ですから負けることは明らかなんですから、その辺は議会運営を大局的に見て、これが県民にとって幸せに繋がるのであれば、第一会派から正副取ってもいいんじゃないですか。だけど、ケースバイケースというのにも出てくるかもわかりませんね、それは。だから、何がいいということは非常に判断しにくいところもあるんじゃないですか。

(議長)再確認しますが、そういう時期もあったということをおし上げたんですよ、私は。もうどっちがいいとか、なんとなんとかいう問題については新体制のもとで十分議論していただきたいと思います。

(質問)新政みえができたときに、元々正副議長を独占したじゃないですか、平成12年。そこから要はいろいろ紆余曲折があって、第一会派から議長、第二会派から副議長という国会と同じようなある程度体制をしようと、議会は一枚岩だから、という形になっているんですね。そういうことですね。

(議長)はい。そういうことでございまして、私も当時副議長させていただきました。

(以 上) 11時20分 終了